

■ HRD FINE ART 展覧会開催のご案内 ■

Boundaries／おわりとはじまり ～ 日独写真作家展

トーマス・ノイマン＋カトレン・ヘヴェル＋南條敏之＋金サジ

会 場： HRDファインアート（京都市上京区上御霊堅町494-1）

会 期： 2019年 4月20日（土）～ 5月25日（土）

時 間： 水・木曜日 11:00～15:00

金・土曜日 11:00～18:00

（曜日によって時間が異なりますのでご注意ください／日・月・火曜日休廊）

オープニングレセプション：2019年 4月20日（土） 17:00～

【展覧会概要】

HRDファインアートでは、「Boundaries（境界）」をテーマに、日本とドイツの30代～40代の写真作家4名によるグループ展を開催いたします。

川や山などの地理的な境目、国境や壁、あるいは私たち人間の皮膚など、「境界」は2つの異なる世界を隔て、分離するものであると同時に、2つの世界が互いに接触し、交流し、ときには混じり合い融合する場所でもあります。本展は、文化的背景の異なる作家による多様な写真作品を通じて、始まりと終わりが同居する地点としての「境界」が持つ豊かな含意に焦点を当てる展覧会となります。

出品作家は、写真にとどまらず幅広いメディアで場所性に着目した作品を制作するトーマス・ノイマン、コラージュ的手法で現実と虚構を巧みに交錯させるカトレン・ヘヴェル、自然と人工、光と影などを対置させた峻厳な写真表現を追求する南條敏之、記憶や歴史、神話や物語が織り成す幻想的な光景を絵画的に構築した作品を中心に制作している金サジの4名です。

カザフスタンの茫漠と広がる平原を撮影したトーマス・ノイマンの白黒写真は、本来境目など存在しないはずの空間を「風景」として切り取ろうとする人間の意識を明らかにします。カトレン・ヘヴェルの作品は、透過性フィルムにプリントしたフォトコラージュと鏡を組み合わせ、現実と虚像の隙間へと観る者を誘います。「shelterbelt」と題した南條敏之のシリーズは、日本各地の海岸線で自然と人間を隔てる役割を担ってきた防砂林・防風林に取材した精緻な作品です。金サジは、異なる文化や歴史が交錯し混交する場面を象徴的に捉えたスナップ写真をインスタレーション的に構成します。

日常生活や風景の中に垣間見える様々なBoundaries＝境界を切り口に、ドイツと日本の豊かな写真表現の一端をぜひご高覧ください。

本展はKYOTOGRAPHIE京都国際写真祭のサテライトイベント「KG+ 2019」の参加展覧会です。

【展示作品】



トーマス・ノイマン

Landscape Kazakhstan 01

ゼラチンシルバープリント 17.9×25.8cm 2001年



カトレン・ヘヴェル

Hybrida-2

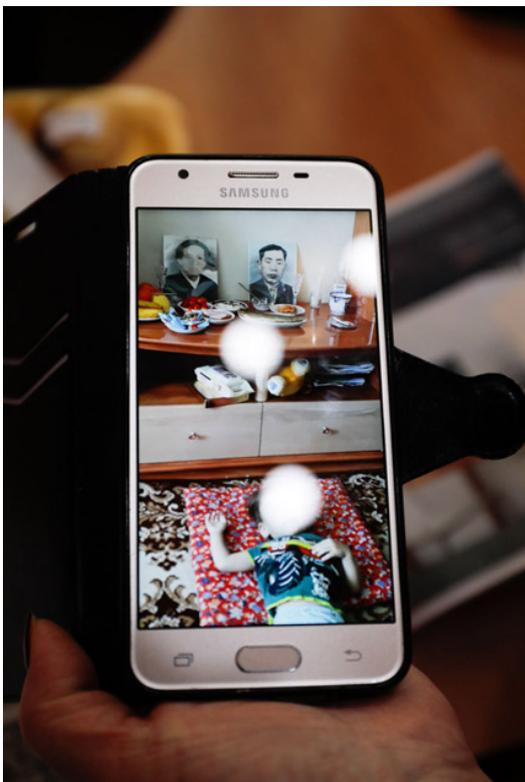
フィルムプリント、鏡、アルミフレーム 95×95×8cm 2011年



南條敏之

shelterbelt

インクジェットプリント 2016年



金サジ

無題

インクジェットプリント 2019年

【作家略歴】

トーマス・ノイマン

Thomas NEUMANN

- 1975 コトブス（ドイツ）生まれ
 2003 デュッセルドルフ美術アカデミーにてトーマス・ルフ教授よりマイスターシューラー取得
 2004 デュッセルドルフ美術アカデミー卒業
 現在、デュッセルドルフ在住

主な個展

- 2005 CAIC（リトアニア、ヴィリニユス）
 Gallery Alexandra Saheb（ベルリン）
 Aktivist（アイゼンヒュッテンシュタット）
 2006 ゲーテ・インスティトゥート（パリ）
 2008 Gallery Alexandra Saheb（ベルリン）
 2010 Museum Baden（ゾーリンゲン）
 2016 「MORI・Thomas Neumann・ISHI」ノマルギャラリー（大阪）
 2018 Technische Sammlungen（ドレスデン）
 「MATRIX」ノマルギャラリー（大阪）

主なグループ展

- 2005 「Les Rencontres d'Arles」（フランス、アルル）
 2006 「Work」Museum Folkwang（エッセン）
 「13th International Month of Photography」（アテネ）
 2007 「Work」Museo di Fotografia Contemporanea（ミラノ）
 「Nach dem Sputnik」KIT（デュッセルドルフ）
 「Erscheinen/Verschwinden」Bunkier Sztuki（ポーランド、クラクフ）
 2008 「Retromorphosis」Cube（マンチェスター）
 「Congress of Futurologists」ICA（ハンガリー、ドゥナウーイヴァーロシュ）
 「Travaux personnels de sept anciens élèves de Thomas Ruff」La Filature（フランス、ミュルーズ）
 2009 「Kabinet II」ライブツィヒ現代アートギャラリー（ライブツィヒ）
 「unerreichbar ist gerade nah genug」Gallery Alexandra Saheb（ベルリン）
 2010 「Landschaft」Galerie der Künstler（ミュンヘン）
 「あいちアートの森 堀川プロジェクト」（名古屋）
 2011 「SORAMAME」Weltkunstzimmer（デュッセルドルフ）
 「アートから出て、アートに出よ」北海道立近代美術館（札幌）
 2012 「FEHLSTELLE」Städtische Galerie（オッフエンブルク）
 「The grand final!」Gallery Alexandra Saheb（ベルリン）
 「Mustererkennung」Museum für Angewandte Kunst（ケルン）
 2013 「Water and Plant」ノマルギャラリー（大阪）

- 「Brise-Soleil」 Estemp Project Space (サンパウロ)
- 2014 「8. Darmstädter Tage der Fotografie」 ダルムシュタット
「写真とことば、記憶の種」 世田谷生活工房 (東京)
- 2016 「dimensions variable I」 Kunstraum (デュッセルドルフ)
「Der Typologische Blick」 SK Stiftung (ケルン)
- 2017 「Static Scope」 アキバタマビ 21 (東京)
「Compilation」 Weltkunstzimmer (デュッセルドルフ)
- 2018 「Gute Aussichten Deluxe」 House of Photography (ハンブルク)
- 2019 「dimensions variable IV」 Emsdettener Kunstverein (エムステッテン)

カトレン・ヘヴェル

Katlen HEWEL

1975 シュヴェービッシュ・ハル（ドイツ）生まれ
2003 デュッセルドルフ美術アカデミー卒業
現在、デュッセルドルフ在住

主な個展

2003 「For the Ladies」 ミュンスター市立博物館 Friedrich Hundt Gesellschaft（ミュンスター）
2005 「girls, girls, girls」 Galerie Poller（フランクフルト）
2006 「Ich ist ein Anderer」 Galerie Bochynek（デュッセルドルフ）
「Superhelden 2002-2006」 ゲーテ・インスティトゥート（パリ）
2007 「Ladies & Gentlemen」 Kunstverein（シュヴェービッシュ・ハル）
2012 「Hybrida」 Showroom Tina Miyake（デュッセルドルフ）
2014 「Projektionen」 Städtische Galerie im Rathaus（ネッテタール）

主なグループ展

2000 「Rheintöchter」 mini-Galerie（デュイスブルク）
2004 「Dreiklang」 Galerie Tolksdorf（フランクフルト）
2005 「Index」 Kunstraum Marion Scharmman（ケルン）
2007 「Nach dem Sputnik」 KIT（デュッセルドルフ）
2008 「Katlen Hewel und Jenny Gonsior」 Parkhaus（デュッセルドルフ）
2010 「Powerhaus」（ハンブルク）
「Who they, what do, and why...」 Kunstverein Kölnberg（ケルン）
2011 「Die Erfindung der Wirklichkeit」 デュッセルドルフ美術アカデミー付属ギャラリー（デュッセルドルフ）
2015 「abwarten」 plan.d（デュッセルドルフ）
2016 「dimensions variable I」 Kunstraum（デュッセルドルフ）
2017 「dimensions variable II」 Baustelle Schaustelle（デュッセルドルフ）
2018 「There Will Be Light」 Galerie Nikolaus Ruzicska（オーストリア、ザルツブルク）
2019 「dimensions variable IV」 Emsdettener Kunstverein（エムステッテン）

レジデンス

2001 デュッセルドルフ美術アカデミー アーティスト・イン・レジデンス（パリ）
2005 Villa Romana（フィレンツェ）

南條 敏之

Toshiyuki NANJO

1972 東京生まれ
1994 東京工芸大学短期大学部写真技術科卒業
現在、神奈川在住

主な個展

2012 「南條敏之 新作展」 Space O'NewWall (ソウル)
2014 「ぬなやかな鏡」 mujikobo (横浜)
2015 「suns」 HRD ファインアート (京都)
2017 「suns / signs / spectators」 HRD ファインアート (京都)

主なグループ展

2008 「Blue Dot Asia」 Seoul Arts Center (ソウル)
「Let There Be Light」 Gallery Hangil (パジュ)
2008-09 「Floating Odyssey 2008」 Waterloo Gallery (ロンドン) / Exhibit Live & Moris (東京)
/ Book House Art Space (パジュ)
2009 「余韻/響き～日本の写真作家3人展」 Hyun Gallery (ソウル)
2010 「ながめる まなざす DIVISION-3」 UP フィールドギャラリー (東京)
2014 「チャンウォン・アジア・アート・フェスティバル」 ソンサン・アートホール
(韓国、チャンウォン)
「Out of Photographs #3」 mujikobo (横浜)
2015 「鏡 - Reflected Images」 川崎市市民ミュージアム (川崎)
2016 「CORRESPONDENCE LANDSCAPE 016」 工房親 (東京)

作品収蔵

川崎市市民ミュージアム (川崎)

金 サジ
Sajik KIM

1981 京都生まれ
2005 成安造形大学造形学部デザイン科写真クラス卒業
現在、大阪在住

主な個展

2011 「瑠璃も玻璃も照らされている」 立体ギャラリー射手座 (京都)
2012 「かわいて、またぬれる」 Gallery PARC (京都)
2015 「STORY」 アートスペース虹 (京都)
2016 「STORY」 アートスペース虹 (京都)

主なグループ展

2014 「釜山ビエンナーレ アジアン・キュレトリアル：Going Going, Until I Meet the Tide」
高麗製鋼水営工場 (釜山)
2015 「アワーズカリグラシマガジンと 50 人のクリエイター」 無印良品グランフロント大阪
Open MUJI (大阪)
2016 「Art Court Frontier 2016 #14」 アートコートギャラリー (大阪)
「写真新世紀展 東京展 2016」 東京都写真美術館 (東京)
2017 「showcase #6 引用の物語 Storytelling」 eN arts (京都)

受賞

2016 「第 39 回公募 キヤノン写真新世紀 2016」 グランプリ受賞

お問い合わせ：HRD FINE ART (エイチアールディー・ファインアート)

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊豎町494-1

電話：090-9015-6087 (担当：原田)

ウェブ：<http://www.hrdfineart.com>

Eメール：info@hrdfineart.com

